

埼玉大学記者会見発表者

1. 社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン(埼玉大学
発展・変革ビジョン)

学長

坂井 貴文

2. 埼玉大学における新型コロナウイルス感染症への対応等について

副学長(大学改革、防災・危機管理担当)

木崎 一美

理事(教学・学生担当)・副学長

柳澤 哲哉

3. 埼玉大学における新型コロナウイルス感染症対策に伴う令和3年度
入学者選抜実施の対応について

理事(教学・学生担当)・副学長

柳澤 哲哉

4. 2020年度 埼玉大学ウェブセミナー

「新しい生活様式への挑戦 ～感染症と共存する社会とは～」

副学長(産学官連携・社会連携・広報担当)

川谷 真紀

5. 埼玉ならではの大学院教育学研究科へ —教職大学院の拡充—

〈資料配付のみ〉

新型コロナウイルス感染症の 広まりにより生じた事象

経済の世界的停滞 

外出制限・自粛 

各国の入国制限 

在宅勤務 

⋮

社会変化

リモート・オンライン化

経済的支援

国際交流のブレーキ

テレワークの推進

⋮

社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革 ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）の策定

埼玉大学の5つの変革

1 教育・学生支援の変革

2 研究の変革

3 社会貢献の変革

4 国際コラボレーションの
変革

5 管理・運営の変革

新たな日常（ニューノーマル）
を見据えた取組の実施

果たすべきミッション

目指すビジョン

取組例

教育・学生支援

いかなる社会状況においても学びの場の継続と新たな社会課題の解決の担い手となる人材の育成

サイバー空間とリアル空間を融合した教育活動の推進と学生支援システムの構築、社会のデジタル化を見据えたICT関係人材の育成

- 「ハイブリッド型教育」の導入
- 大学独自奨学金の充実、学生に対するきめ細やかな支援の提供
- ICT関係人材の養成

研究

新たな知の発見・創出と激変する社会が抱える課題の解決

新たな研究スタイルの創出、激変する社会が抱える課題を解決するための知を創出する拠点の構築

- 研究スタイルの変革を見据えた研究環境の整備
- 人文学・社会科学・自然科学の融合分野とその成果の社会実装を目指す拠点の設置

社会貢献

新たな脅威に直面する社会に寄り添い、地域社会・行政・産業界・非営利活動団体等との協働

ICT活用を含めた協働による地域社会・行政・産業界・非営利活動団体等とのネットワークの構築

- 社会変容に伴う社会のニーズに応えたシンポジウム及び各種情報の発信
- 地域社会と協働したリスク管理

国際コラボレーション

国際社会の激しい変化への対応と世界各地との知の交流

国際社会の変化に柔軟に対応した新しい国際共修、国際共同研究、国際貢献、国際交流の仕組みの構築

- ICT等を活用したグローバル教育・国際交流活動の検討
- 国際共同研究の維持・推進

管理・運営

新たな働き方の確立

組織体制の再構築と徹底した業務の効率化、新たな価値を創造する働き方の確立

- リモートワークの導入
- 業務効率の向上につなげるための教職員の意識改革
- 教職協働の更なる推進

社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン
(埼玉大学発展・変革ビジョン)

2020年9月

国立大学法人 埼玉大学

「社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）」

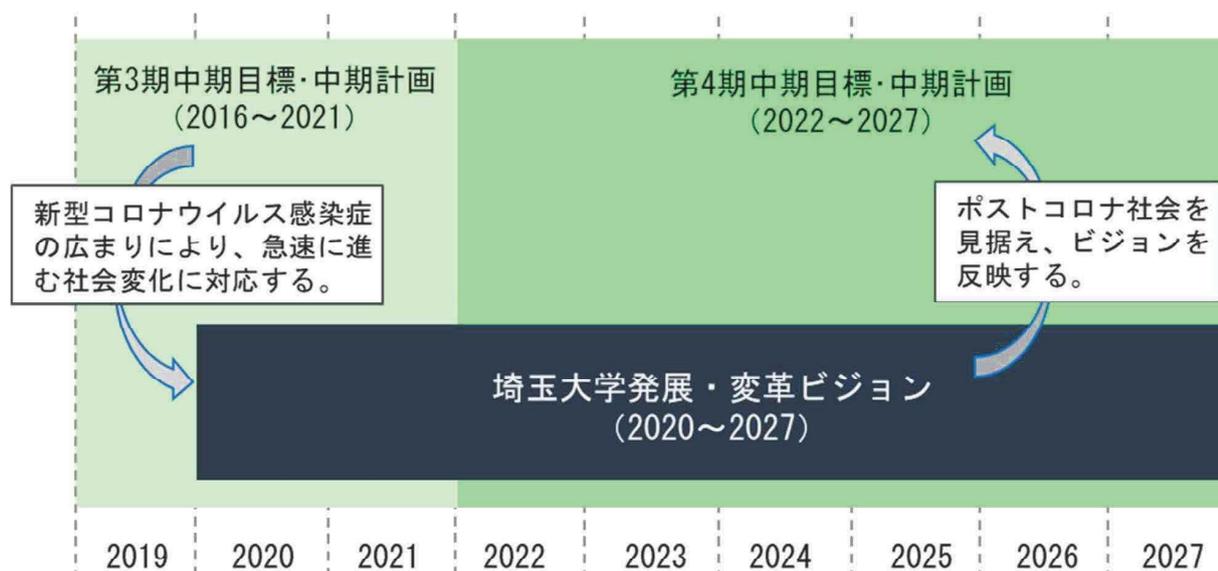
の策定にあたって（趣旨・背景）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界規模での感染拡大により、生活様式は大きな変容を求められており、これまでとは違った新たな社会のあり方やライフスタイルの構築が喫緊の課題になっています。

埼玉大学においても、このような新たな日常（New Normal）を見据えた教育、研究、社会貢献、国際交流、管理・運営の変革が求められ、このため、既存の戦略・取組に加えて新たなビジョンの策定が早急に必要となり、ここに「社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）」を策定いたしました。

本ビジョンは、2016年4月に制定した本学の基本方針で掲げる「知の府としての普遍的な役割を果たす」、「現代が抱える課題の解決を図る」、「国際社会に貢献する」の三つの柱を今日の事態に対応して展開するものであり、第3期中期目標期間（2016年度～2021年度）と第4期中期目標期間（2022年度～2027年度）の両期間を跨ぎ、目前のコロナ禍において喫緊に実施すべき取組とともに、第4期中期目標期間に渡る新たな社会を見据えた取組を内容としております。

なお、本ビジョン自体は、第4期中期目標・中期計画の全てに係るものではありませんが、中長期的な取組の一部は、今後策定される第4期中期目標・中期計画に繋がっていくものとなります。



社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）

【前文】

埼玉大学は、総合大学として、時代を超えた大学の機能である知を継承・発展させ、新しい価値を創造することを基本的な使命とし、3つの基本方針を掲げています—1. 知の府としての普遍的な役割を果たす。2. 現代が抱える課題の解決を図る。3. 国際社会に貢献する。

今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の広まりによって、医療や労働をめぐる問題、格差の拡大、東京一極集中、気候変動など、現代社会の諸課題が顕在化し、新たな価値観に根ざした社会変化の流れが国内外で生まれています。

埼玉大学は知の力によって、これら諸課題の解決にチャレンジします。本学の基本方針に則って、新しい社会の将来像を提示してまいります。

ここに、「社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン（埼玉大学発展・変革ビジョン）」を定め、埼玉大学は社会と共に新たな発展を遂げることを目指します。社会の変革に伴って生ずる埼玉大学および社会に係る諸課題を解決するとともに、社会の変革を先導する所存です。

I 果たすべきミッション

1. いかなる社会状況においても学生たちの学びの場を継続するとともに、新たな社会課題の解決の担い手となる人材を育成します。
2. 新たな知の発見・創出と予測不能で激変する社会が抱える課題の解決とを目指します。
3. 新たな脅威に直面する社会に寄り添い、地域社会・行政・産業界・非営利活動団体等と協働し、「知の府」として社会に貢献します。
4. 国際社会の激しい変化に対応しつつ、世界各地域との知の交流を進め、国際社会に貢献します。
5. 急速に進む社会変化を既存業務の変革の好機と捉えて、新たな働き方を確立します。

II 目指すビジョン

教育・学生支援の変革

- 1-1. サイバー空間とリアル空間を融合した教育活動の推進および効果的な学生支援システムの構築等により、学生たちの誰一人取り残すことなく、教育・研究・学生支援を行います。
- 1-2. 社会のデジタル化を見据えた ICT 関連人材の育成を行います。

研究の変革

- 2-1. 新しいツール・システムを活用した機動力ある研究体制の構築を可能にし、基礎研究および応用研究、産学官連携研究、国際共同研究の継続・推進を図り、新たな研究スタイルを創出します。
- 2-2. 予測不能で激変する社会が抱える課題を解決するための知を創出する拠点を構築します。

社会貢献の変革

3. さまざまな活動分野で、地域社会・行政・産業界・非営利活動団体等とネットワークを構築し、ICT の活用を含めた協働により効果的に機能させ、社会が直面する諸課題の解決を図ります。

国際コラボレーションの変革

4. 国際社会の変化に柔軟に対応した、新しい国際共修、国際共同研究、国際貢献、国際交流の仕組みを構築します。

管理・運営の変革

5. 急速に進む社会変化を既存業務の変革の好機と捉えて、組織体制の再構築および徹底した業務の効率化を図り、新たな価値を創造しうる働き方を確立します。

Ⅲ ビジョンを実現するための取組例

教育・学生支援の変革

- ・ 遠隔授業と対面授業の併用による「ハイブリッド型教育」の導入による教育の質的高度化および学修の効率化の推進
- ・ 大学独自奨学金の充実および学生に対するきめ細やかな支援の提供
- ・ 社会のデジタル化を見据えた ICT 関連人材の養成

研究の変革

- ・ 研究スタイルの変革を見据えた研究環境の整備
- ・ 人文学・社会科学・自然科学の分野融合とその成果の社会実装を目指す拠点の整備

社会貢献の変革

- ・ 社会変容に伴う社会のニーズに応えたシンポジウムおよび各種情報の発信
- ・ 地域社会と協働したリスク管理

国際コラボレーションの変革

- ・ ICT 等を活用した新たなグローバル教育・国際共同研究の推進

管理・運営の変革

- ・ リモートワークの導入等による多様な働き方の推進
- ・ 業務効率の向上につなげるための教職員の意識改革
- ・ 新たな価値を創造するための教職協働の更なる推進

【対応策協議等】

対策の原則

感染から守る

+

クラスターの発生を防ぐ

危機対策本部（全学的意思決定）

COVID-19対策部会（具体的対策検討）

感染症対応
マニュアル
【5月】

学生行動
指針
【6月】

【教育】

学事日程

TOEICテスト中止
(⇒オンラインで実施)
【7/23】

学部・大学院
入学式中止
【4/3・6】

授業開始
延期
【4/13⇒4/27】

オープンキャンパス中止
(⇒オンラインで実施)
【8/11・12】

就学支援

新入生への
電話連絡
【4月】

チャットボット
導入
【4月～】

ネット環境
構築支援
【4月～】

独自奨学金
創設
【5/1】

感染防止

オンラインによ
るガイダンス
【4月】

遠隔での
手続きの推進
【4月～】

遠隔授業
【4/27～】
実験・実習・実技
【6/18～】

アルコール消毒
液設置・マスク配布
【6/8～】

【管理】

事業継続

在宅勤務
【4/9～5/31】

通勤手段の
変更
【4/9～5/31】

時差出勤
【4/9～】

オンライン会議
【4月～】

その他

イベント・
海外渡航自粛
【3月～】

課外活動制限
【3月～】

図書館
利用制限
【3月～】

入構禁止
【4/9～6/7】
入構制限
【6/8～】

目 次

新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

1. 本マニュアルの位置づけ	2
2. 新型コロナウイルス感染症に対する埼玉大学の対応方針	2
3. 学生	
・新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状が出た場合	5
・新型コロナウイルス感染症と診断された場合	10
・新型コロナウイルス感染症感染者の濃厚接触者として特定された場合	12
4. 教職員	
・新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状が出た場合	15
・新型コロナウイルス感染症と診断された場合	20
・新型コロナウイルス感染症感染者の濃厚接触者として特定された場合	22
5. 授業（学生・教員）	24
6. 研究（学生）	25
7. 入構・課外活動（学生）	26
8. 研究（教員・研究員等）	27
9. 国内出張（教職員）	28
10. 海外渡航・派遣（教職員、学生）	29
11. 会議・式典	30
12. 事務職員・技術職員	31
13. 附属学校園	32
14. 学外者	33
15. 個人情報保護について	33
別紙様式	34

2020年5月
2020年7月6日改訂

国立大学法人埼玉大学

「感染症対応マニュアル」の策定-2

新型コロナウイルス感染症に対する埼玉大学の対応方針

リスクレベル	判定の目安	学 生			教員・研究員等	教職員・学生			会議・式典	事務職員 技術職員	附属学校園	学外者
		授 業	研 究	入構・課外活動	研 究	国内出張	判定の目安	海外渡航・派遣				
レベル0 海外発生期	海外で新型コロナウイルスが発生しているが、国内で発生していない状況	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり		通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり	通常どおり
レベル1 国内発生期	埼玉県を除く首都圏で感染者が発見	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染者が発見された地域への出張は自粛	当該国・地域における外務省の感染症危険情報に基づく「十分注意してください」	感染症危険情報に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	感染拡大防止に留意の上、通常どおり	マスク着用を要請 手指衛生を要請
レベル2 地域感染期 (初期)	埼玉県内で感染者が発見又は埼玉県以外の首都圏で、新型コロナウイルスの患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態	感染拡大防止の対策を講じた上で実施 遠隔授業の導入準備	感染拡大防止の対策を講じた上で実施	感染拡大防止の対策を講じた上で実施 学内外における屋内での10人以上の集会の禁止 授業等必要な用務以外の登校は極力控える	感染拡大防止の対策を講じた上で実施 シンポジウム、カンファレンス、セミナー、学会等への参加を控える	レベル1に同じ	当該国・地域における外務省の感染症危険情報に基づく「不用不急の渡航は止めてください」	新規の海外への渡航禁止 既に渡航している者については、感染者数が急激に増加した国・地域は帰国指示、その他については、十分な安全対策をとるよう指示	感染拡大防止の対策を講じた上で実施 オンライン方式を推奨	時差出勤を推奨	通常の活動を大幅に見直す。 埼玉県教育委員会及びさいたま市教育委員会の対応も勘案する。	レベル1に同じ
レベル3 地域感染期 (拡大段階)	埼玉県内、首都圏で感染が拡大政府による「緊急事態宣言」の発令 埼玉県による「緊急事態措置」の実施	座学は遠隔授業とする。 学生の入構禁止の期間は、対面授業(実験、実習、実技等)を停止	原則中止 ただし、実験装置の維持補助、生物の維持・管理補助、液体窒素・液体ヘリウム補充等及び博士後期課程の学生のうち研究科長が必要と認める場合は可	入構禁止 ただし、実験装置の維持補助等、生物の管理補助等及び博士後期課程の学生のうち研究科長が必要と認める場合を除く 学内外における課外活動の中止	現在進行中の実験、研究の継続に必要な最小限の関係者のみ立ち入りを許可	禁止	当該国・地域における外務省の感染症危険情報に基づく「渡航は止めてください」(渡航中止勧告)	すべての者への帰国指示 可能な限りオンライン方式とする	大規模な式典、会議は中止又は延期	在宅勤務(テレワーク)を原則 業務継続計画に基づき必要最小限の人員の出勤 時差出勤を推奨	臨時休校・休園 教職員は在宅勤務を奨励	郵便・宅配業者及び工事業者等、本学が必要と認める者以外入構禁止
レベル4 地域感染期 (蔓延段階)	学生、教職員等に感染者が発見 大学構内で蔓延の可能性	レベル3に同じ	大学構内で感染が蔓延している場合は、中止。 大学構内で蔓延の可能性がない場合は、レベル3に同じ。	入構禁止 学内外における課外活動の中止	研究資源の維持のための必要最小限の入室は許可(生物の維持・管理、液体窒素・液体ヘリウム補充、研究活動を維持する上での各種安全確保対策)	レベル3に同じ	当該国・地域における外務省感染症危険情報に基づく「退避してください」(退避勧告)	レベル3に同じ	オンラインのみ	大久保キャンパスの一部又は全部封鎖 教員を含めた構成員の一部又は全構成員一定期間在宅勤務	臨時休校・休園 構成員の一部又は全構成員一定期間在宅勤務	入構禁止
レベル5 地域感染期 (爆発段階)	特措法第45条第2項に基づく施設使用制限の発動 学生、教職員等に感染者が増加 大学構内で蔓延(クラスター)の可能性	レベル3に同じ	中止	レベル4に同じ	レベル4に同じ	レベル3に同じ			レベル4に同じ	レベル4に同じ	レベル4に同じ	レベル4に同じ

～学生の皆様へ～

令和2年6月5日
埼玉大学

埼玉大学 学生行動指針

埼玉大学では、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を策定し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に取り組んでいます。

学生のみなさんは、「感染しない、させない」ため、対応マニュアルに沿った行動を取るとともに、以下の行動を心がけてください。

密閉
しない



部屋に空気の流れができるよう
複数の窓を1時間に2回以上、
数分間は開けて換気しましょう

密集
しない



他の人とは1メートル以上
距離を取りましょう

密接
しない



密接した会話や発声は
避けましょう。
避けられない場合は、
マスクを着用しましょう

触れ
ない



入退室の際ドアノブに
触れないように、部屋の
ドアや建物の出入口は
開けたままにしましょう

清潔
に



講義や研究の前後には、
こまめに手洗いをしましょう
また、必ずタオルやハンカチ
を携帯しましょう

検温
する



毎朝、体温を測り、
熱がある場合は登校せず、
マニュアルに沿って
行動しましょう

記録
する



感染者が発生した時に備え
講義や研究、食事での
座席位置や同室者等を記録
しておきましょう

外出
しない



不要不急の登校や外出、
会食等は極力控えましょう

6/5現在のリスクレベル
レベル0 / 通常の授業
レベル1 / 部分授業
レベル2 / 地域感染期（初期）
レベル3 / 地域感染期（拡大）
レベル4 / 地域感染期（激化）
レベル5 / 地域感染期（終息）

～To students～

June 5, 2020

Saitama University Students Behavioral Guidelines

We are working to prevent the spread of new coronavirus infections based on the "Manual for dealing with new coronavirus infections".

To protect each other, students should follow the manual and take the following actions.

Open
Windows



To ventilate the air in classrooms,
open multiple windows
for a few minutes
more than once per hour.

Keep
distance



Maintain a distance,
1 meter or more with other
people.

Avoid
crowds



Avoid close conversations
and vocalizations.
If it is unavoidable,
wear a mask.

Keep doors
open



Keep doors open
to avoid touching
shared surfaces.

Wash and
Clean



Please wash your hands
frequently before and after
lectures or research.
Also, be sure to carry a towel
or handkerchief with you.

Check
temperature



Check your temperature every
Morning. If you have a fever,
do not come to the university
and follow the manual.

Keep a
log



Keep a record of where you
sat and who you were with
during classes, studies, and
meals in case contact tracing
is necessary.

Stay
home



Stay at home and avoid going
to the university or going out
for non-essential purposes.

Current risk level (June 8th)
Level 0 / Normal operations
Level 1 / Partial operations
Level 2 / Minor restrictions
Level 3 / Moderate restrictions
Level 4 / Severe restrictions
Level 5 / All campus activities suspended

新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活支援が必要な学生への「埼玉大学緊急支援奨学金」

【本件リリース先】

埼玉県政記者クラブ

PRESS RELEASE



埼玉大学広報渉外室

TEL : 048-858-3932

FAX : 048-858-9057

e-mail:koho@gr.saitama-u.ac.jp

令和2年5月1日

「埼玉大学緊急支援奨学金」制度を創設

新型コロナウイルス禍の対応として学生の生活をサポート

埼玉大学では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、企業や商業施設等の休業等によりアルバイトなどの収入が減少して毎日の生活にも困窮する学生に対して、「埼玉大学修学サポート基金※」を活用し、給付型の奨学金による支援を始めます。

※埼玉大学修学サポート基金

経済的理由により修学に困難がある学生に対し、奨学支援などを行う基金

1. 支援対象とする学生

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて毎日の生活にも困窮し支援が必要とされる学生とし、その困窮している状況(学生の説明理由書により)を確認したうえで支援を行う。

2. 給付額、給付人数、募集時期

- (1) 給付額 実家住まいの自宅学生 3万円(返済不要)
アパート等1人住まいの自宅外学生 5万円(返済不要)
- (2) 給付人数 約1,200名
- (3) 給付予定 6月上旬を予定

3. 緊急支援奨学金に関するお問い合わせ先

学生支援課 TEL:048-858-3944

4. 追加方策を立てる上でのご支援のお願い

現在、本学では新型コロナウイルス禍の対応として、できる限り多くの学生を支援するために、「埼玉大学修学サポート基金」へのご支援を募っております。本基金の趣旨にご理解とご賛同を賜り、是非ともお力添えをお願い申し上げます。

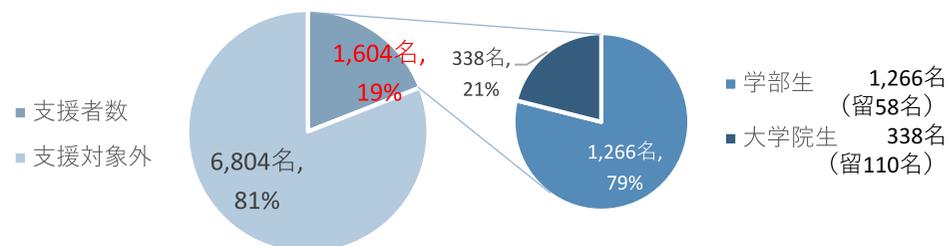


(本学 HP トップ画面)

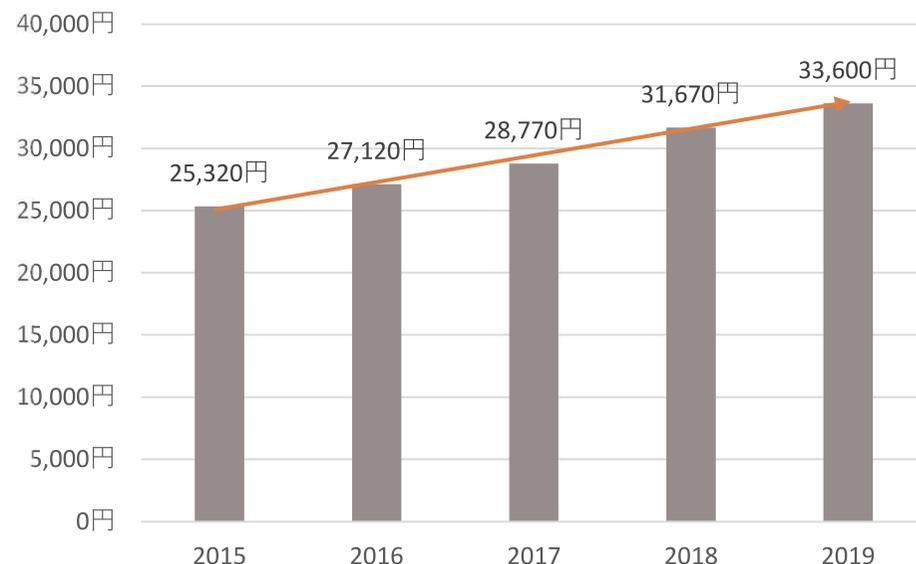
支援状況：2020.5.27

支給区分	申請者数	支援者数	支援額
自宅学生 (30,000円)	441名	437名	13,110,000円
自宅外学生 (50,000円)	1,180名	1,167名	58,350,000円
計 (うち留学生)	1,621名 (172名)	1,604名 (168名)	71,460,000円 (8,240,000円)

支援割合



(参考) 1ヶ月のアルバイト収入の推移〈全国学部学生：下宿生〉



出典：第55回学生生活実態調査 全国大学生生活協同組合連合会

「埼玉大学緊急支援奨学金」に寄せられた意見

ご寄附をいただいた皆さまからのメッセージ

一般の方

- 大学は社会の未来を築く知の泉です。些少ですが、お役に立てると嬉しいです。
- 縁あって昨年から埼玉県民になりました。少額で申し訳ありませんが、せめて学生さんの1冊の本代にでもなればと思います。

卒業生・修了生

- 大学で学んだ勉強の仕方は一生役に立ちます。今大学で学んでいる大学生のみなさんは厳しい現実と直面していると思いますが是非乗り越えてもらえたと切に願っております。
- アルバイトをしながら経済的に苦しかった学生生活を経験した者として、現在の学生の皆さんが置かれている大変な状況はよくわかります。学生の皆さんが引き続き埼玉大学で勉学に励み卒業できることを心より願っております。

教職員（退職者を含む）

- 埼玉大学の学生・教職員の方々には、この困難な状況乗り越える力があると信じております。
- 学生たちも埼玉大学の未来をともに創るメンバー。ささやかですが応援の気持ちを届けます。

学生からの感謝のメッセージ

学部生

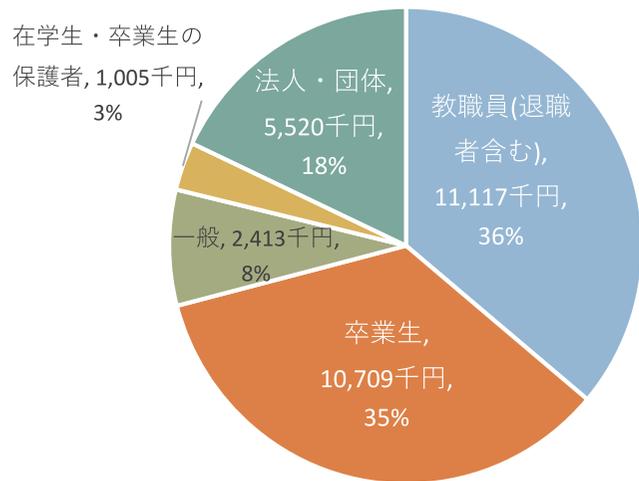
- このような支援金をもらうことができ、心身ともに安心をもって勉学に励むことができます。メッセージを読み、埼玉大学生が社会から愛されて期待を受けていることがわかりました。大変励みになります。本当にありがとうございます。
- 皆さまの温かいご支援のおかげで今後も前向きに頑張る勇気をいただきました。私も、この先の人生、他者に手を差しのべられる人でありたいと思います。本当にありがとうございました。
- 地方から埼玉大学へ進学しましたが、コロナウイルスの影響により引っ越しやアルバイト、大学での学びの面でも影響が出ていまして、大変不安でしたが、皆さんからのご支援、メッセージのおかげで、乗り越えられそうです。ありがとうございました。
- 寄附者の方々からのメッセージを読ませていただきました。とても温かいお言葉ばかりでがんばって乗り越えていこうという気持ちになることができました。学びに対する目的を忘れず、勉学により一層打ち込んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

大学院生

- コロナでいろいろ不安でしたが皆様のように支えてくれる人がいるので勉学に励むことができます。将来、私も困っている人々を助けられるよう、頑張っていきたいと思っております。
- 埼玉大OB・OG、一般の方、教職員の方々からのご支援をいただき、多くの人に支えられている埼玉大生としてとても誇らしく思いました。埼玉大学という素晴らしい学び舎でこれからも勉学等、精進してゆきたいと思っております。

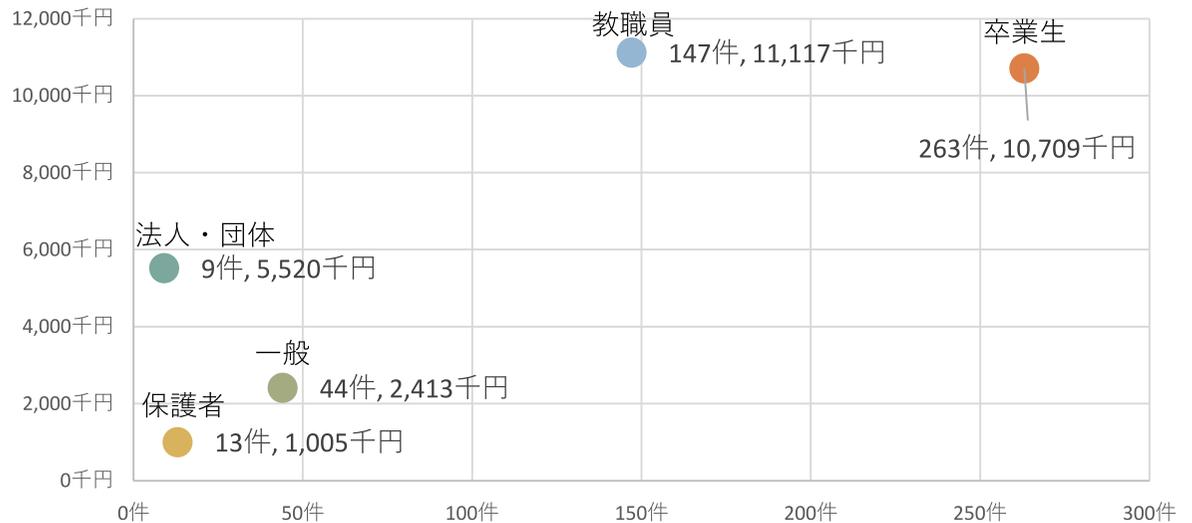
埼玉大学基金「修学サポート基金」寄附申し込み状況（5/1～6/30）

寄附申込み金額



計：476件・30,764千円

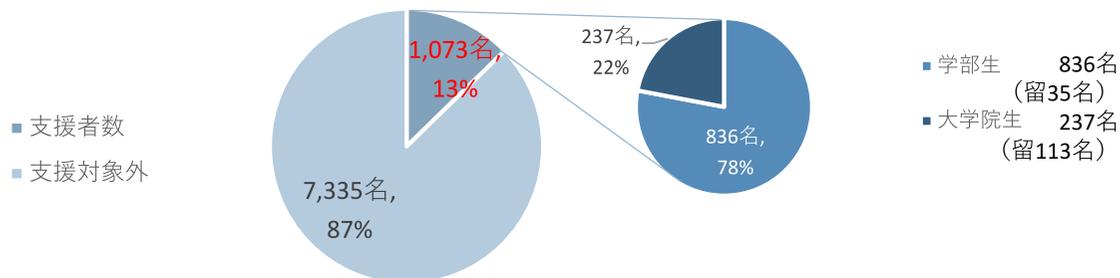
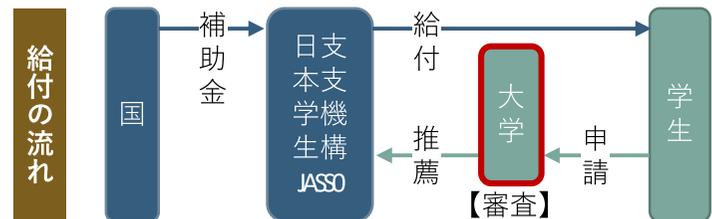
寄附申込み件数・金額



文部科学省「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』

一次・二次推薦状況

支給区分	学部生	大学院生	計	給付額
住民税非課税世帯の学生（20万円）	161名	80名	241名	48,200,000円
上記以外の学生（10万円）	675名	157名	832名	83,200,000円
計（うち留学生）	836名（35名）	237名（113名）	1,073名（148名）	131,400,000円（23,000,000円）



（参考）全国

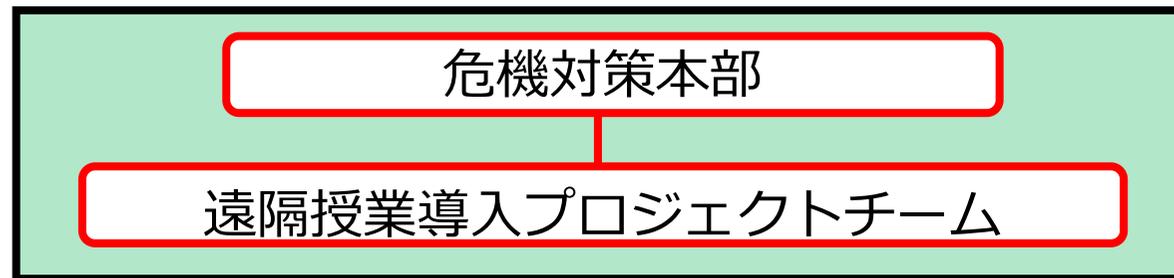
- ◇予算額：531億円
- ◇対象者：約43万人
- ◇給付額：住民税非課税世帯の学生 20万円
上記以外の学生 10万円



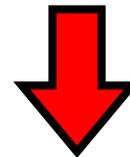
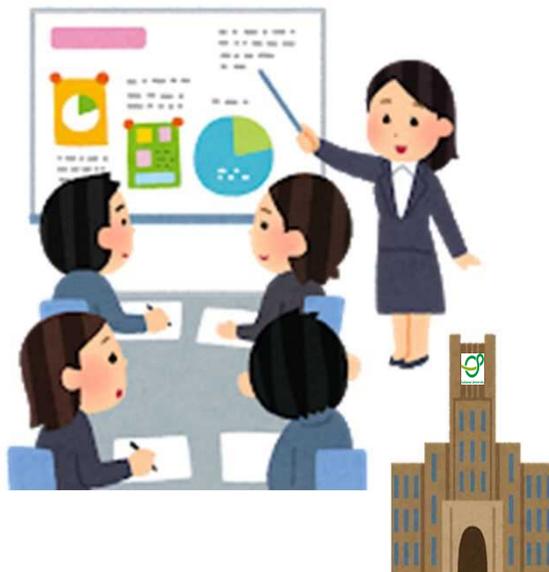
※三次推薦手続き中。

オンラインによる遠隔授業の導入

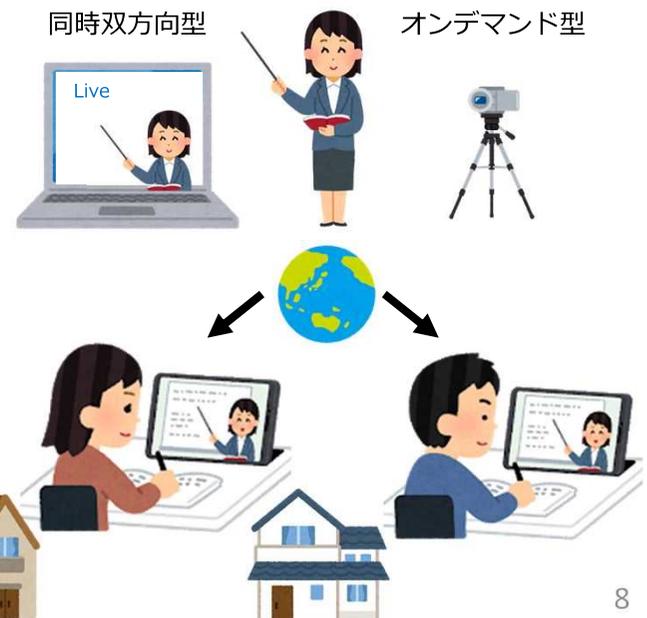
新型コロナウイルス対策として、埼玉大学構内での対面授業から、インターネットを通じてのオンラインによる遠隔授業とした。



従来の授業形態



オンラインによる遠隔授業

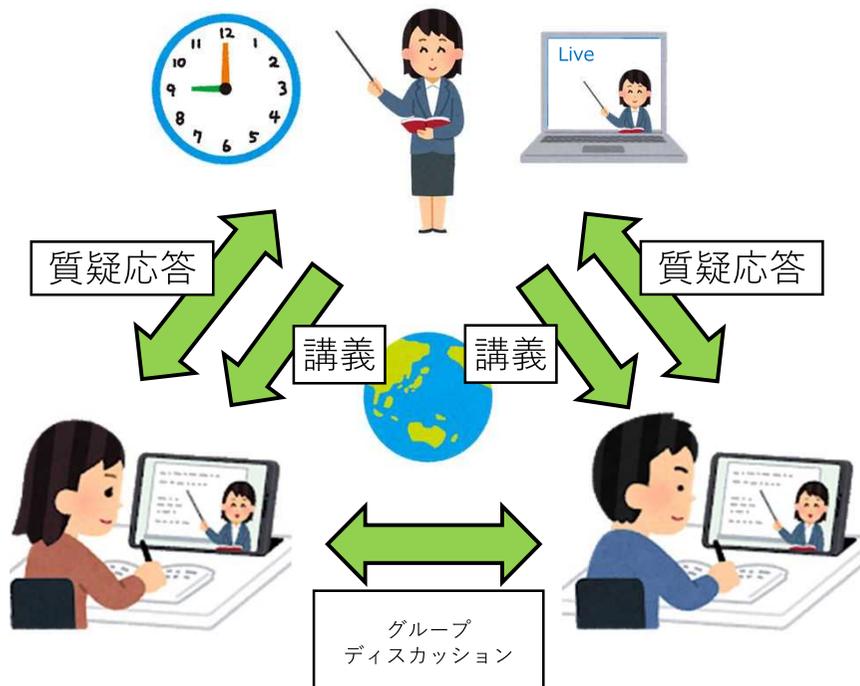


オンラインによる遠隔授業の概要

オンラインによる遠隔授業の方法として、「同時双方向型」「オンデマンド型」「ハイブリッド型（同時双方向型とオンデマンド型の併用）」による実施。

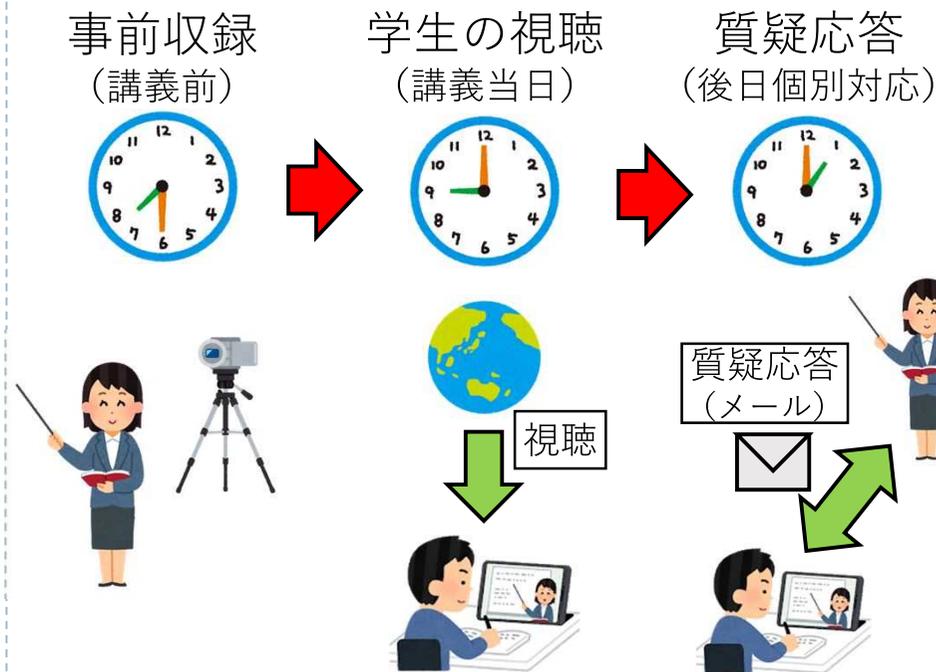
「同時双方向型」授業

- ・Web会議ツール「Zoom」を利用。
- ・リアルタイムで配信されるため、教員・学生間で質疑応答等を行うことが可能。



「オンデマンド型」授業

- ・既存の授業支援ツール「WebClass」を利用。
- ・事前に収録した講義を視聴する。
- ・講義資料を教材としてダウンロードして、提示された課題を実施する。質疑応答等は個別に行う。



在宅勤務（4/9～5/31）実施状況

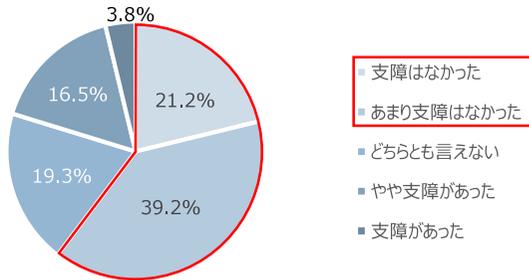
在宅勤務実施状況

在宅勤務実施率：42.8%

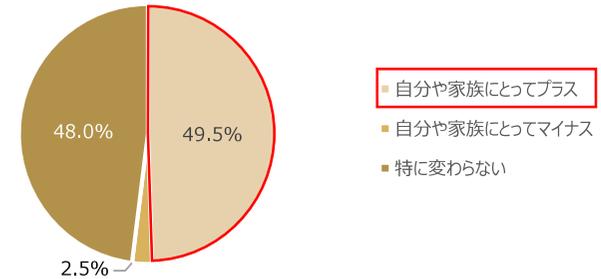
在宅勤務実施後のアンケート結果



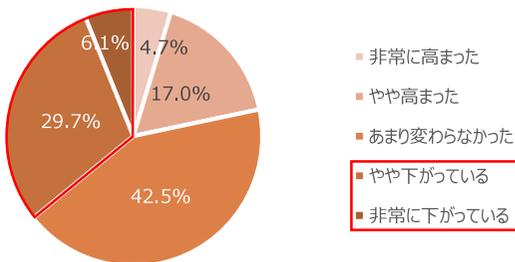
業務上の支障 (n=212)



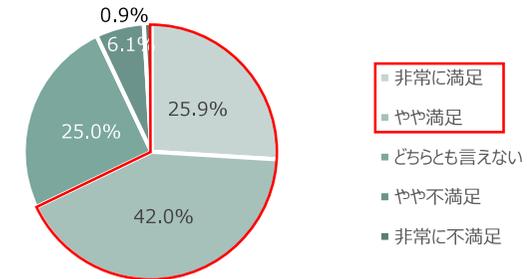
家族と過ごす時間の変化 (n=200)



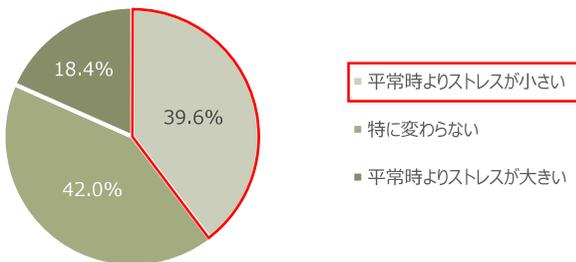
仕事の生産性の変化 (n=212)



在宅勤務での総合満足 (n=212)



精神的なストレス状態への影響 (n=212)



主な意見

子供の突発的な病気の為、休暇が続く際に在宅勤務が利用できると有り難いです。様々なリスクが軽減でき業務効率が同等であれば強く推奨したいと思います。

在宅勤務の推進は社会的要請でもあり、それに組織として対応する姿勢を示すことも一つの意義があると思います。

窓口対応等は大学に出動しないとできないため、週5で在宅は無理だと感じます。

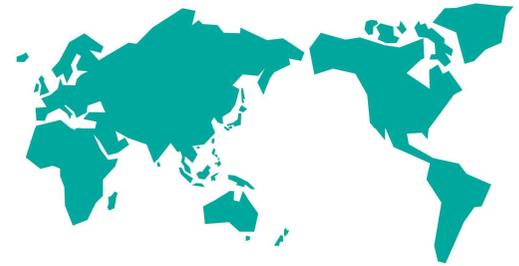
大学での勤務は、学生への対応、教員への対応があり、在宅勤務にはなじまないと思います。

外国人留学生の受入支援

秋季入学式

秋季入学式（令和2年9月24日）

外国人留学生が渡日困難なため中止（秋季入学者80名中57名が渡日困難）



概要

新規渡日国費外国人留学生数：25名（予定）

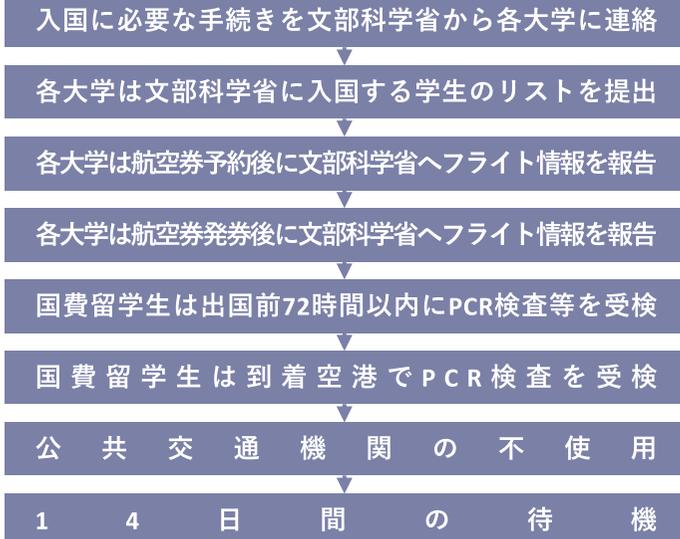
新規入国する国費外国人留学生について、入国拒否の例外として、順次入国を進めることとされた。

【要件】

以下の3点の措置を追加防疫措置を講じるとともに、大学等の受入機関がその実効性を確保することが条件とされている。

- ①居住国からの出国前72時間以内にPCR検査等を実施し、入国審査時に検査証明書等を提出すること。
- ②日本入国時に空港においてPCR検査等を受検し、結果が判明するまで、指示された場所で待機すること。
- ③入国後14日間は個室の宿泊施設等で待機し、公共交通機関を使用しないこと。

一スケジュール



埼玉大学の支援措置

（経費負担は上限3万円）



一時帰国外国人留学生数：約80名

159か国・地域が入国拒否対象国に指定されているが、特段の事情（再入国可による出国した外国人で、滞在先の日本国大使館・総領事館が交付した再入国関連書類提出確認書や、出国前に出入国在留管理庁が交付した受理書を所持する者等）があると認められる場合に、入国が可能。

（※1）入国拒否対象地域（下線は8月30日入国分から対象）

アジア	インド、インドネシア、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国（香港及びマカオを含む）、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、モルディブ
ヨーロッパ	アイスランド、アイルランド、アゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、アンドラ、イタリア、ウクライナ、ウズベキスタン、英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）、エストニア、オーストリア、オランダ、カザフスタン、北マケドニア、キプロス、ギリシャ、キルギス、クロアチア、コソボ、サンマリノ、ジョージア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、パチカン、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベラルーシ、ベルギー、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポルトガル、マルタ、モナコ、モルドバ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン、ルーマニア、ルクセンブルク、ロシア
中東	アフガニスタン、アラブ首長国連邦、イスラエル、イラク、イラン、エジプト、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、トルコ、バーレーン、パレスチナ、レバノン
アフリカ	アルジェリア、エスワティニ、 <u>エチオピア</u> 、カーボベルデ、カーナ、ガボン、カメルーン、 <u>カンボジア</u> 、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コートジボワール、コモロ、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、 <u>ザンビア</u> 、シエラレオネ、ジブチ、 <u>ジンバブエ</u> 、スーダン、赤道ギニア、セネガル、ソマリア、中央アフリカ、 <u>チュニジア</u> 、 <u>ナイジェリア</u> 、ナミビア、ボツワナ、マダガスカル、 <u>マラウイ</u> 、南アフリカ、 <u>南スーダン</u> 、モーリシャス、モーリタニア、モロッコ、リビア、リベリア、 <u>ルワンダ</u> 、 <u>レソト</u>
北米	アメリカ、カナダ
中南米	アルゼンチン、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、キューバ、グアテマラ、グレナダ、コスタリカ、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、チリ、ドミニカ国、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、ハイチ、パナマ、パラグアイ、パラバドス、ホンジュラス、ブラジル、ベネズエラ、 <u>ペルー</u> 、 <u>ボリビア</u> 、メキシコ
大洋州	オーストラリア、ニュージーランド

一要件





Saitama University

資料 2 - 2
埼玉大学記者会見
令和 2 年 9 月 2 3 日

埼玉大学 オンライン授業に関するアンケートより

学生調査

- 調査名称：「オンライン授業に関するアンケート（学生向け）」
- 実施期間：2020年6月10日～26日（金）
- 調査方法：Microsoft Forms
- 質問項目
 - I 所属、学年
 - II 通信環境について
 - III 授業の方式について
 - IV 授業の内容について
 - V 総合満足度
 - VI 自由記述欄
- 回答総数：1214
- 回答率：15.5%

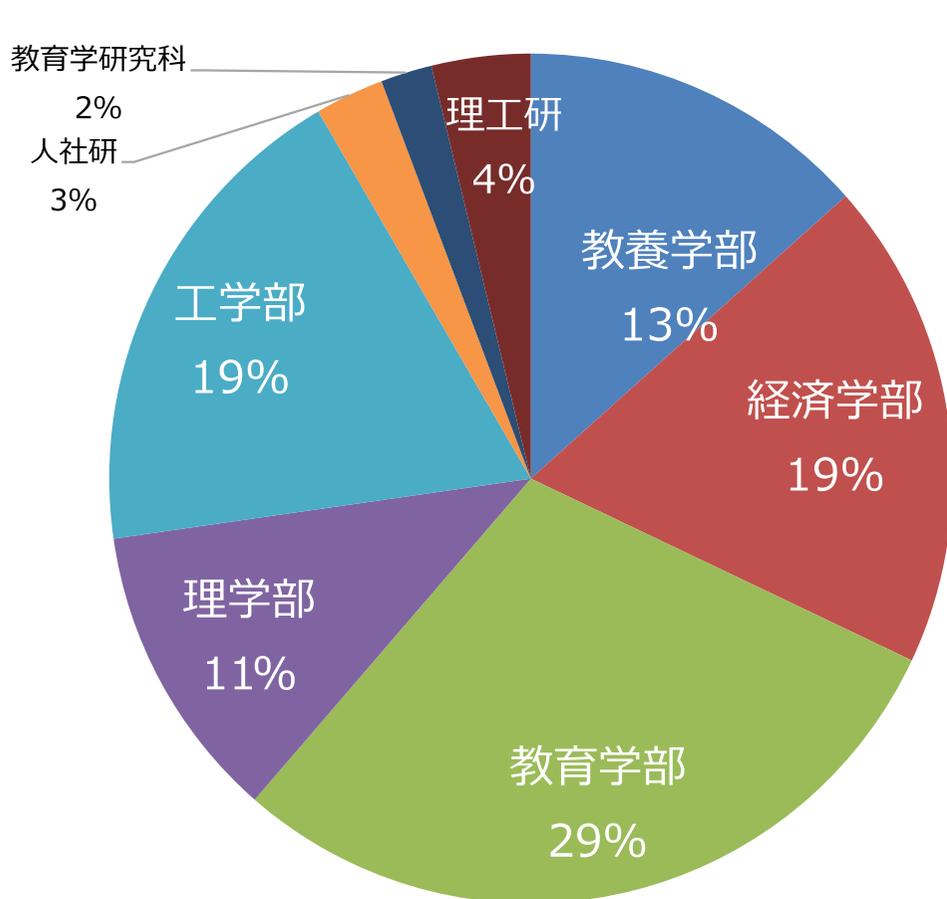
教員調査

- 調査名称：「オンライン授業に関するアンケート（教員向け）」
- 実施期間：2020年6月10日～26日（金）
- 調査方法：Microsoft Forms
- 質問項目
 - I オンライン授業を実施される環境について
 - II 授業の準備について
 - III 授業の実施状況について
 - IV 教育の質を確保するための工夫について
 - V 授業の規模や形態に由来する問題について
 - VI 授業で使用されるツールについて
 - VII オンライン授業による教育効果について
 - VIII 自由記述欄
- 回答総数：263
- 回答率：37.5%

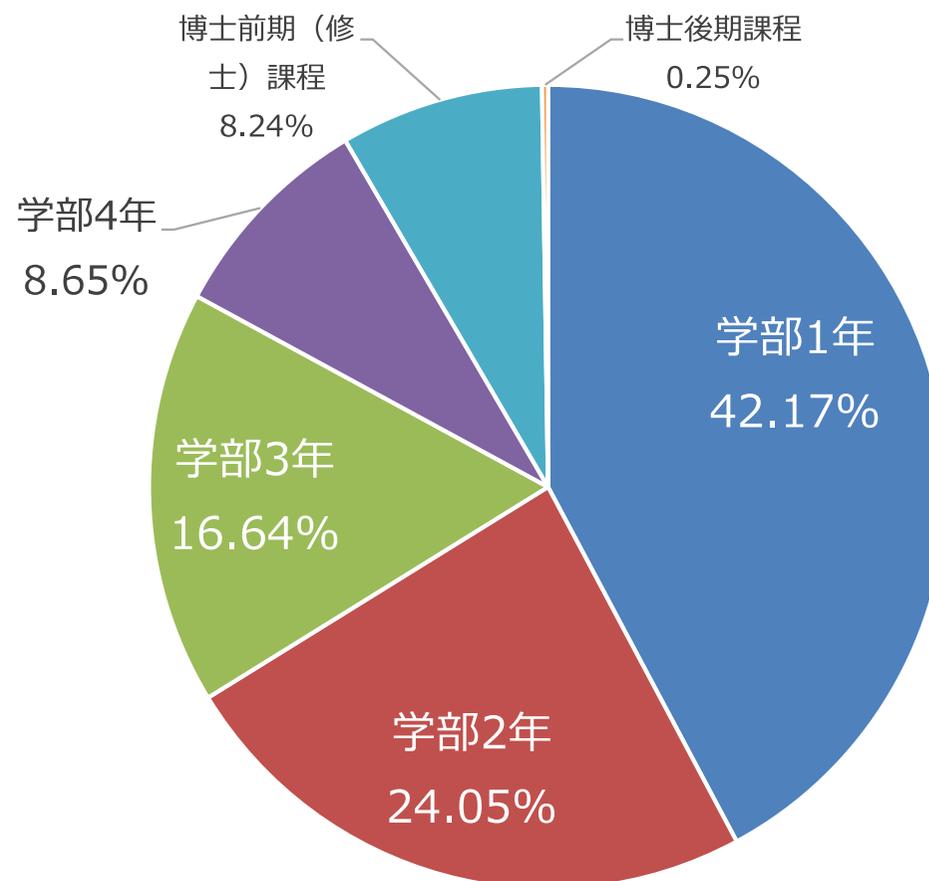
I 所属、学年

1214件の回答

1. あなたの所属を教えてください。



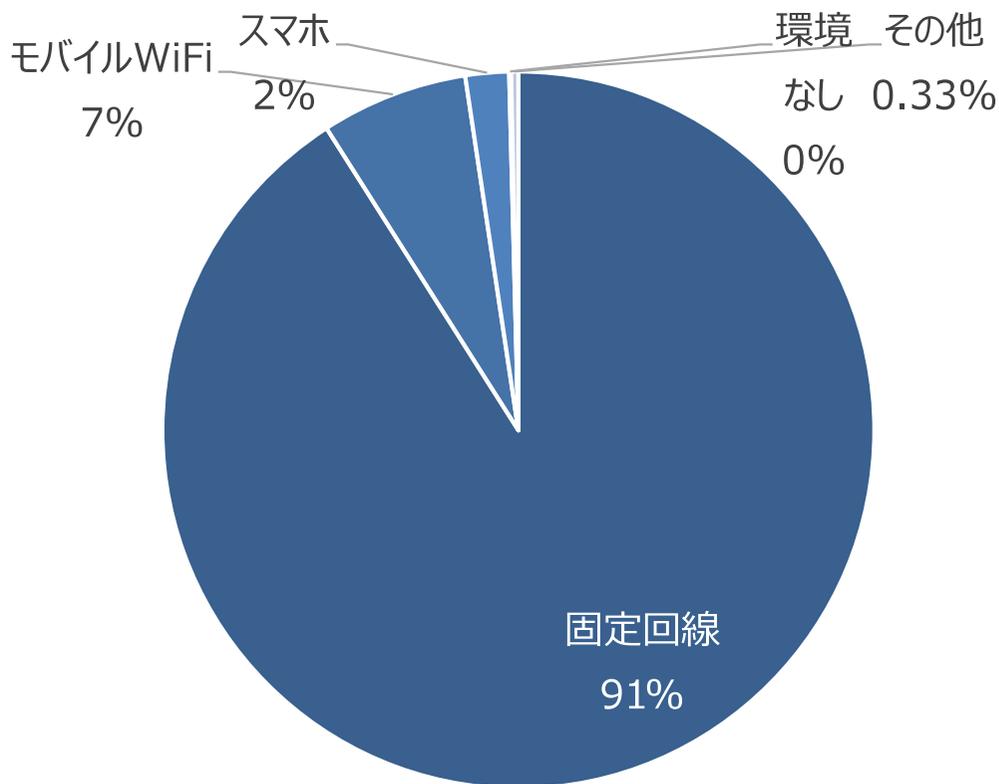
2. あなたの学年を教えてください。



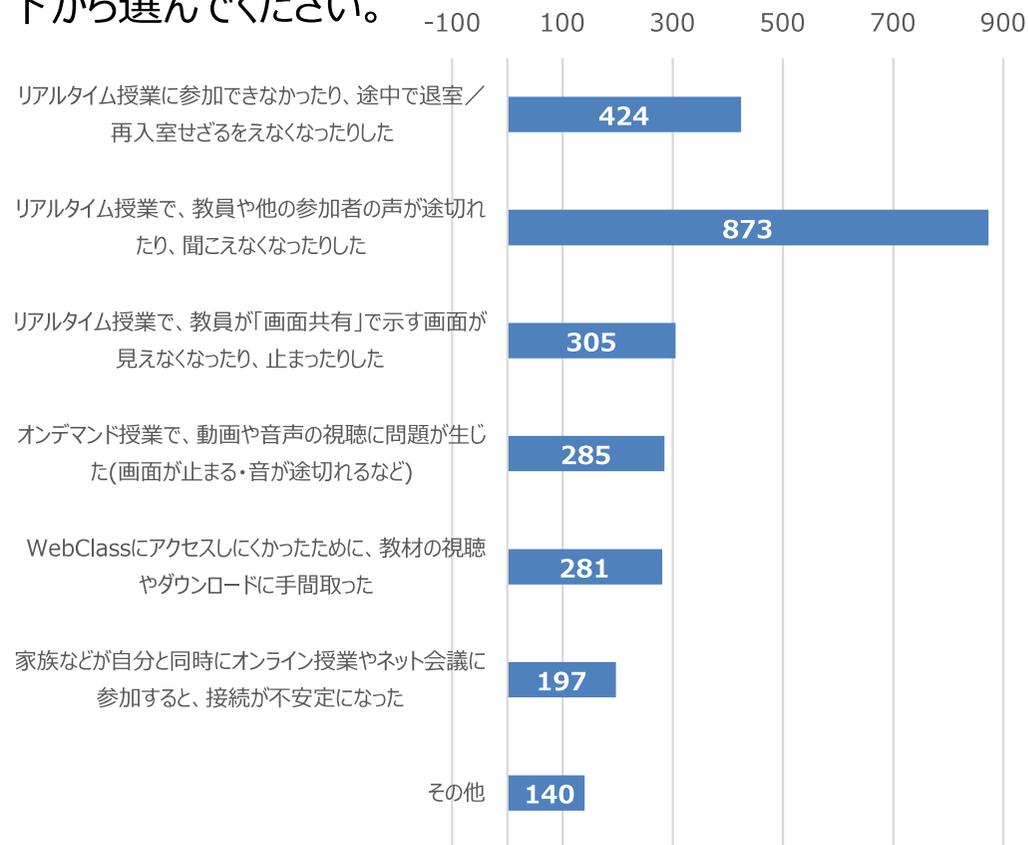
• 全体の回答率は15.5%であった（回答総数のうち、学部学生からの回答の割合が91%、大学院生からの回答の割合が9%）

Ⅱ 通信環境について

3. あなたの現在の通信環境について、あてはまるものを下から選んでください。



4. あなたはオンライン授業に参加する際に、どのような接続トラブルを体験しましたか。あなたにとって特に深刻だったものを3つまで、下から選んでください。



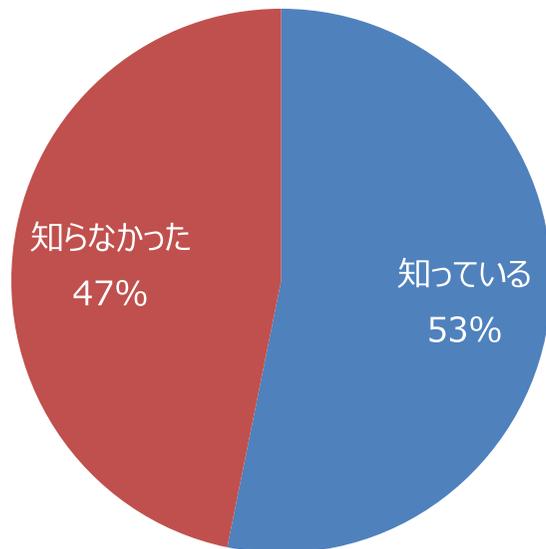
- 学生の通信環境は、自宅や下宿での固定回線が9割。
- 接続トラブルは、リアルタイム授業中に音声途切れたり聞こえなくなった経験が873と、回答総数の72%に及んだ。

Ⅱ 通信環境について

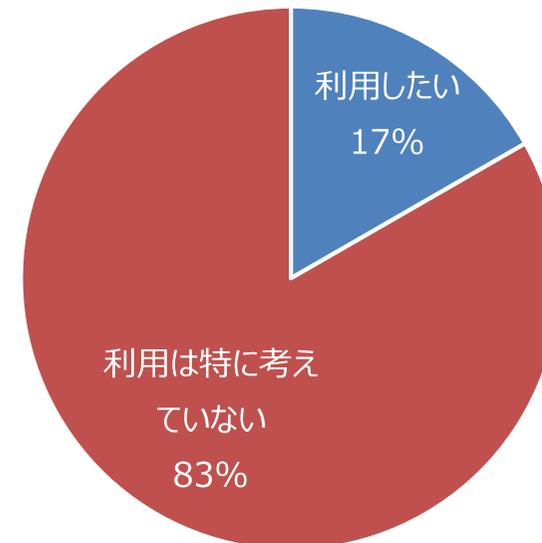
5. 接続トラブル その他の理由（主なコメントを抜粋・要約）

- Zoom授業のとき、教員が学生の「入室を許可」することを忘れたために、何人かの学生が「待機室」で待たされて授業に参加できないまま20分位経過した、ということがあった。
- 家族と同時にWi-Fiを利用した時に通信が途切れることが度々ある。
- 他の学生がミュートせずに入室して混乱したことがある。
- Zoom授業のURLの配布方法が、それぞれの講義でバラバラだった（教務システムのメッセージ・Officeアカウント宛てのメール・WebClass・Slack等のSNS）。またZoomのURLが固定なのか毎回変わるのかも、講義によって異なるため、最初のうちは混乱があった。

6. 通信環境に問題を抱えている学生に、大学がノートPCやモバイルWiFi端末を貸し出していることを知っていますか？



7. 上記6. で「知らなかった」と回答された方に質問です。今からでもこのサービスを利用したいと思えますか？

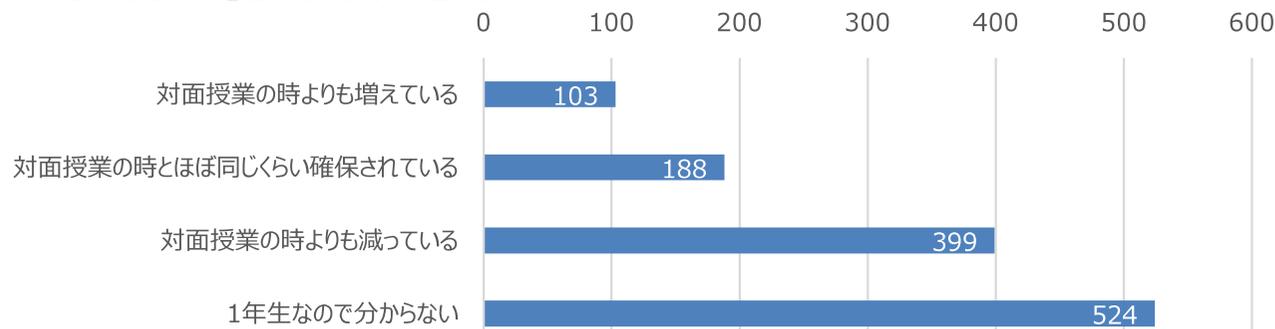


IV 授業の内容について

12. 得られる知識や情報という点で、対面授業との違いをどのように感じていますか？あてはまるものを下から選んでください。



13. 学生同士で意見を交換したり、他の学生の意見を知って自分の考えを深めたりする機会が、対面授業と比べて変化していると思いますか？あてはまるものを下から選んでください。1年生は「1年生なので分からない」を選択してください。



14. 教員に質問をしたり、教員から学習上のアドバイスや課題についてのフィードバックを受けたりする機会が、対面授業と比べて変化していると思いますか？1年生は「1年生なので分からない」を選択してください。



- 得られる知識や情報については、「質・量ともに向上している」「対面授業とほぼ同じである」が全体の66%となり、顕著な質の低下はみられないと思われる。

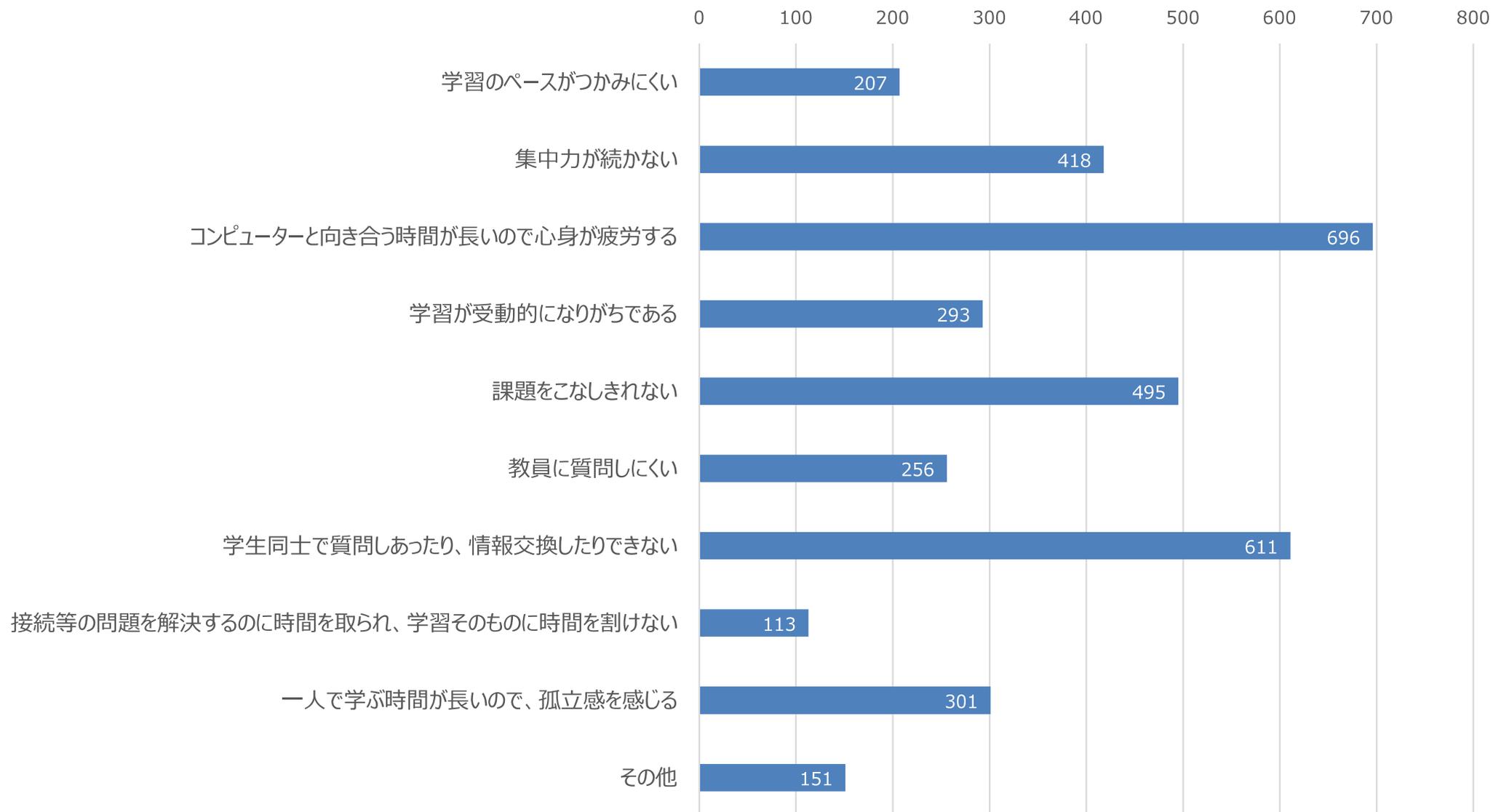
- 意見交換の機会については、「対面授業の時よりも減っている」が全体の58%となり、半数以上の学生が対面の時より意見交換の機会が減ったことを感じている。

- 教員への質問の機会、フィードバックの機会については、「対面授業の時よりも増えている」「ほぼ同じくらい」が全体の64%となり、質問やフィードバックの機会はそれほど減っていないことが分かる。

※いずれも、「1年生なので分からない」を除いた割合。

IV 授業の内容について

15. オンライン授業にはどのような欠点があると思いますか？特に重要と思うものを3つまで選んでください。



IV 授業の内容について

15. オンライン授業にはどのような欠点があると思いますか？特に重要と思うものを3つまで選んでください。

【考察】

・上位を占めたのが以下の4点である。

- ①「コンピューターに長時間向き合うゆえの心身の疲労」
- ②「学生間での知識や情報交換の難しさ」
- ③「課題をこなしきれないこと」
- ④「集中力を持続することの難しさ」

・①については、いったん画面から目を離す時間を作るために、動画・音声ファイルや授業資料をいくつかの部分に分割する（オンデマンド授業の場合）、休憩時間をはさむ（リアルタイム授業の場合）等の授業における工夫も、ある程度有効ではないかと思われる。

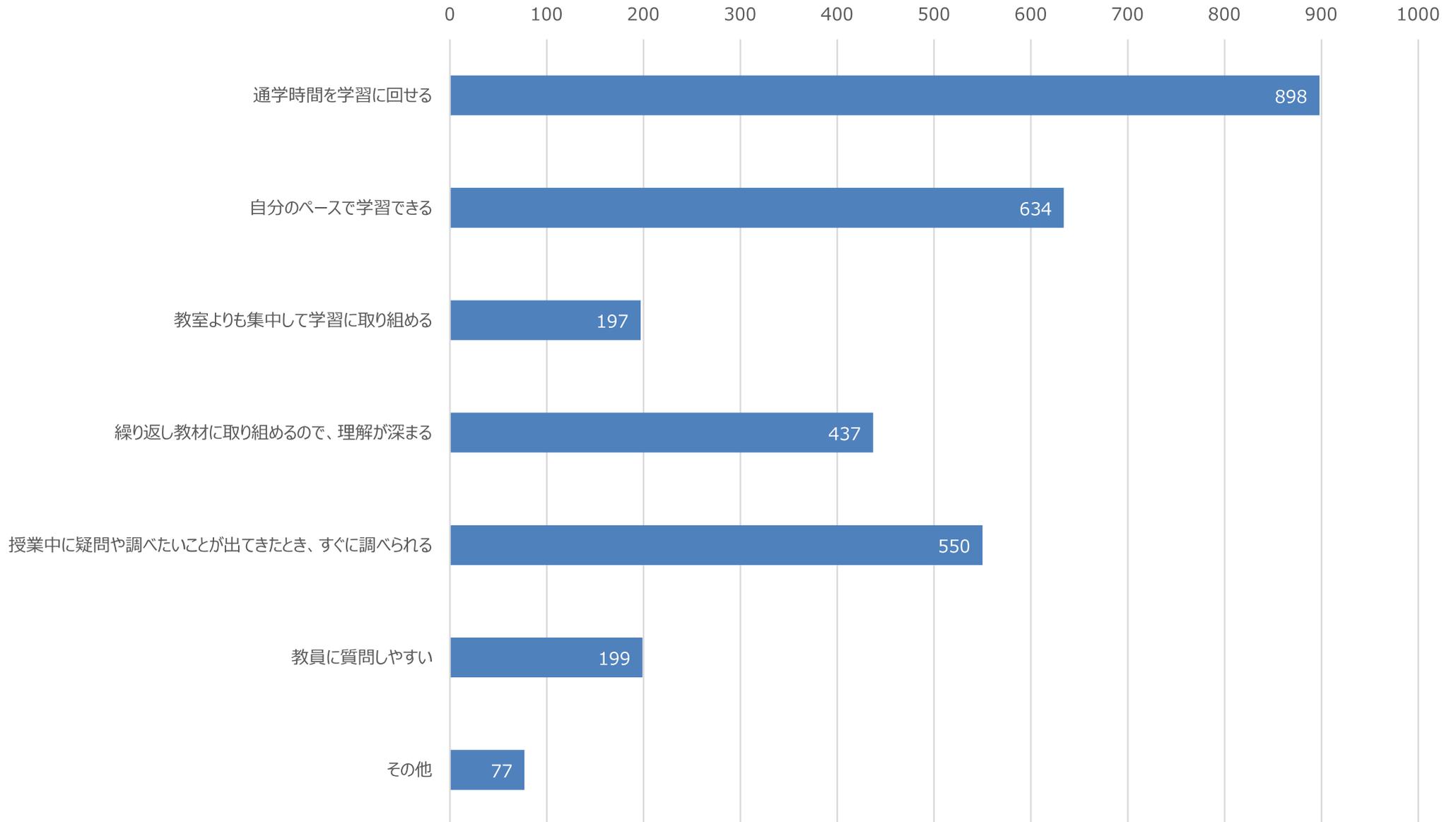
・②については、授業内の対応として、チャットや掲示板、Zoomのブレイクアウトセッション機能等を利用することが考えられる。また、ピア・サポートなど、学生同士がオンラインで交流できる場を提供することも重要であろう。

・③については、課題量への配慮のほかに、課題に取り組むための時間の確保（提示と締め切りの間を十分に開ける等）、課題の意義や目的についての十分な説明も重要なのではないか。

・④については、①について述べたことのほかに、授業内容に関連した問いかけ（ミニクイズ）を授業資料に加えるなどの工夫も有効かもしれない。

IV 授業の内容について

17.オンライン授業にはどのような利点があると思いますか？特に重要と思うものを3つまで、以下から選んでください



IV 授業の内容について

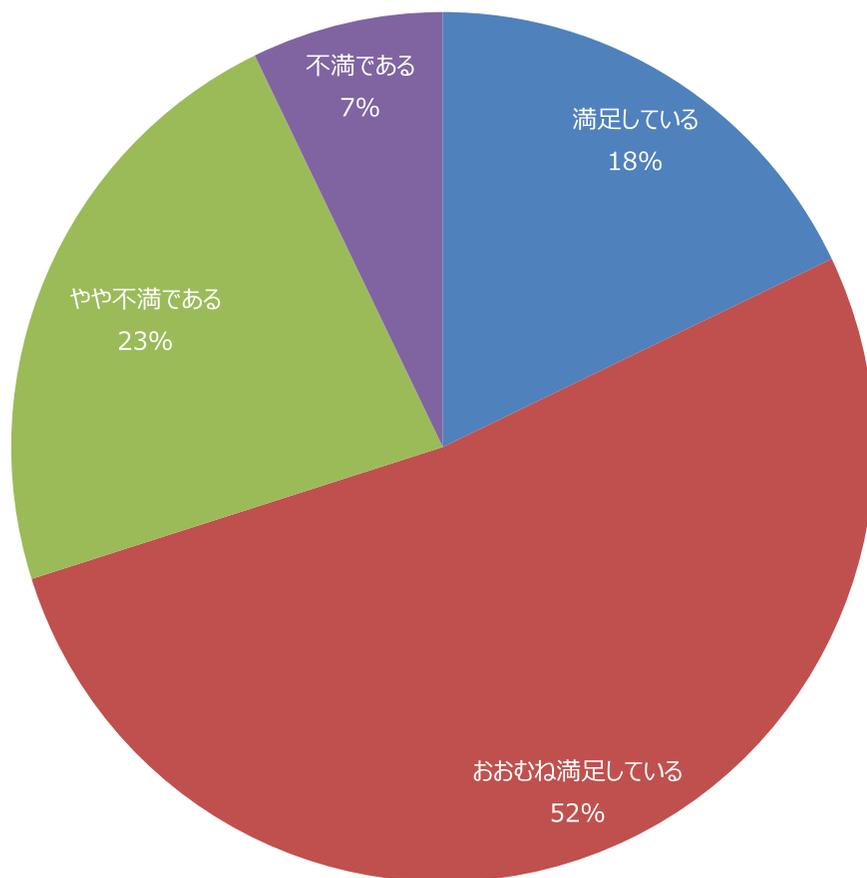
17.オンライン授業にはどのような利点があると思いますか？特に重要と思うものを3つまで、以下から選んでください

【考察】

- ・上位に来たのは、順に「通学時間を学習に回せる」、「自分のペースで学習できる」、「授業中に分からないことや調べたいことが出てきたときに、すぐに調べられる」、「繰り返し教材に取り組めるので、理解が深まる」であった。第2～4位を占めた回答からは、「学生が知識や情報をしっかりと、深く受けとめることが可能になる」という、オンライン授業ならではの学びの可能性を読み取ることができるのではないだろうか。
- ・中長期的には、その可能性を対面授業においてどのように活かしていくか、というのも重要になってくると思われる。また、「一度しか見聞きできないこと」への対応能力の育成も、意識して取り組むべきポイントになってくるかもしれない。

V 総合満足度

19.あなたは埼玉大学でのオンライン授業に、全体としてどの程度満足していますか？現時点での印象に基づいて、あてはまるものを下から選んでください。



- 総合的な満足度については、「満足している」「おおむね満足している」で全体の70%となった。



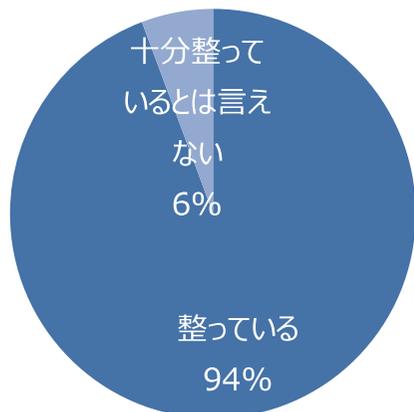
Saitama University

教員調査

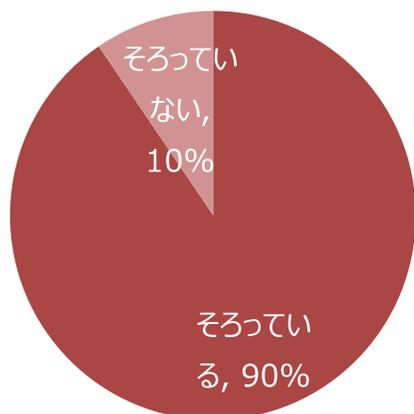
I オンライン授業を実施される環境について

263件の回答

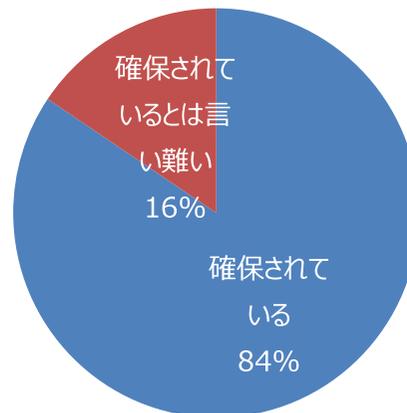
1. インターネット接続環境は整っていますか？



2. オンライン授業を実施されるのに必要なツール ([PC内蔵のものも含む]Webカメラ、ヘッドセット、イヤホン等)はそろっていますか？

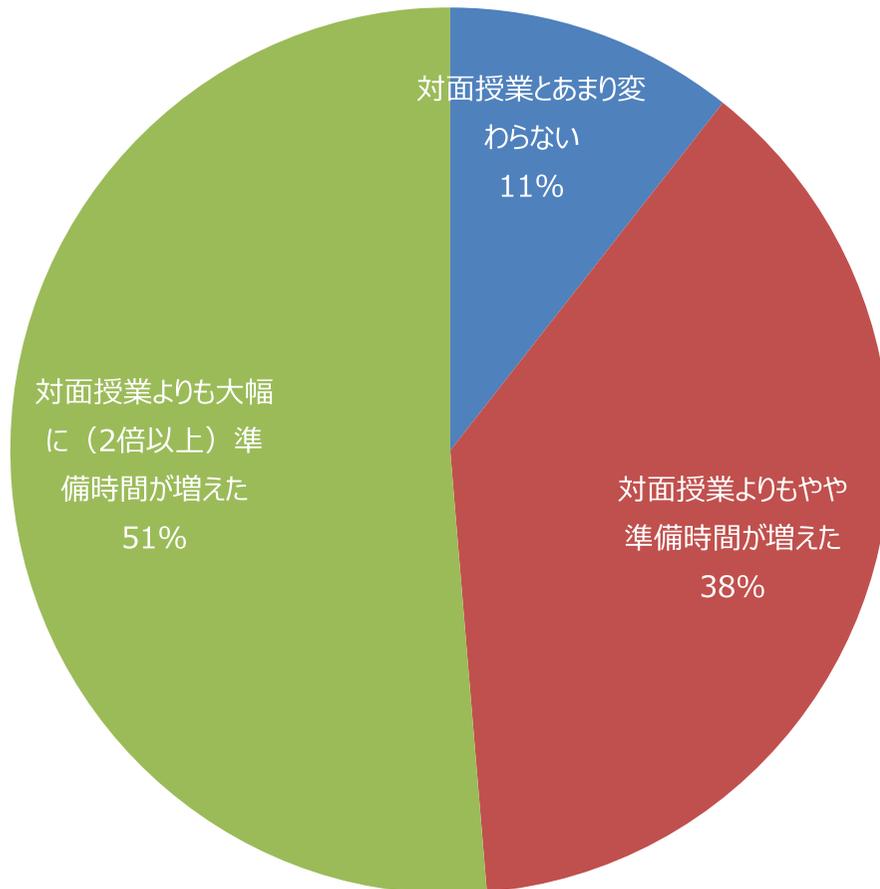


3. オンライン授業を実施されるのに適切な環境は確保されていますか？



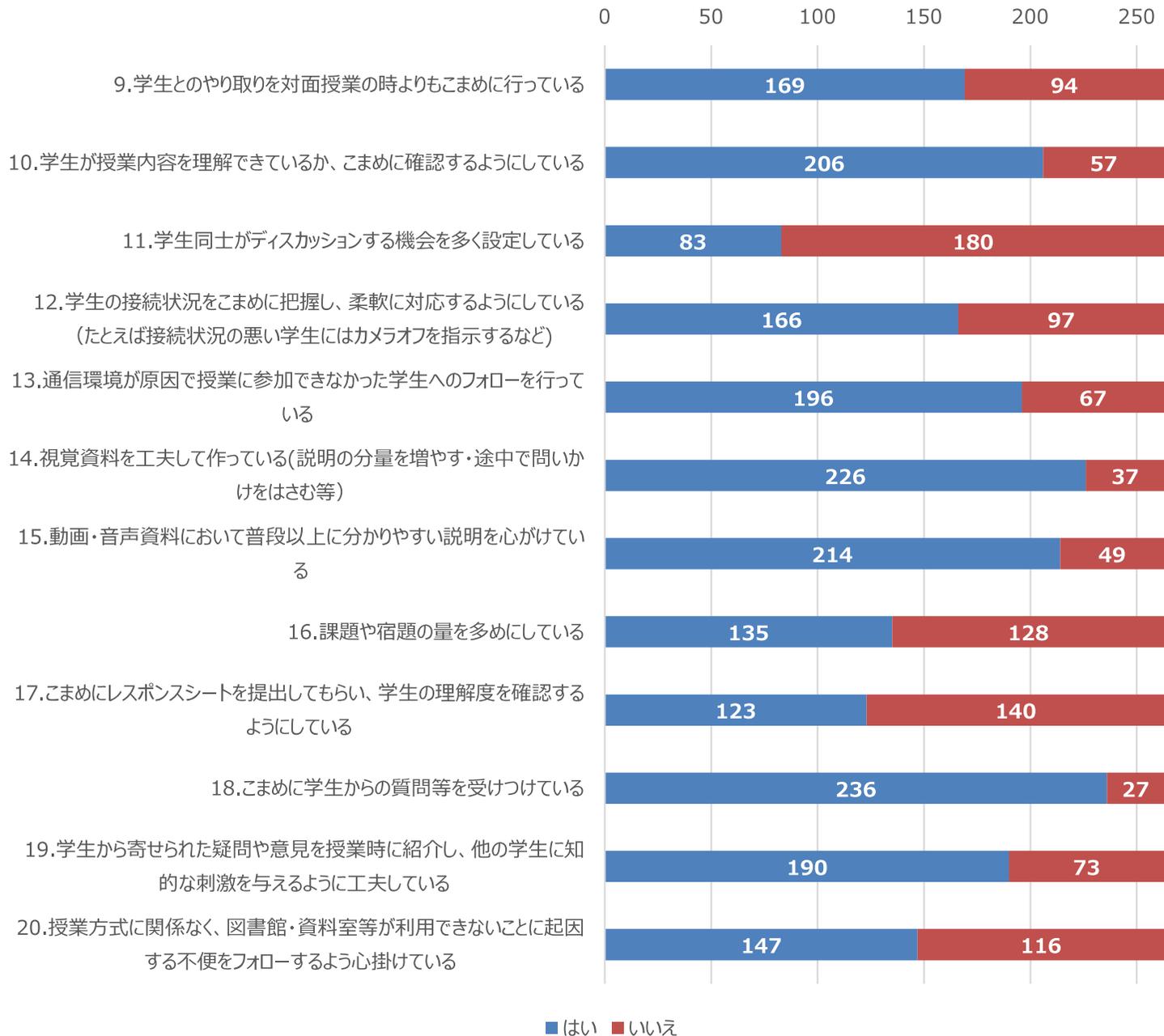
- ネット環境、ツール、適切な実施環境については、8割～9割の教員に確保・整備していただいている。

4. 授業の準備に要する時間について、あてはまるものを以下からお選びください。



- 授業の準備時間については、対面授業と比べて「やや増えた」「大幅に増えた」が9割。
- この準備時間には、「オンラインでの授業環境の構築」「実施ツールの操作方法の習得」「オンライン授業に合った教材の準備」「受講者へのフィードバック作業」が多くを占めていると思われる。

IV 教育の質を確保するための工夫について

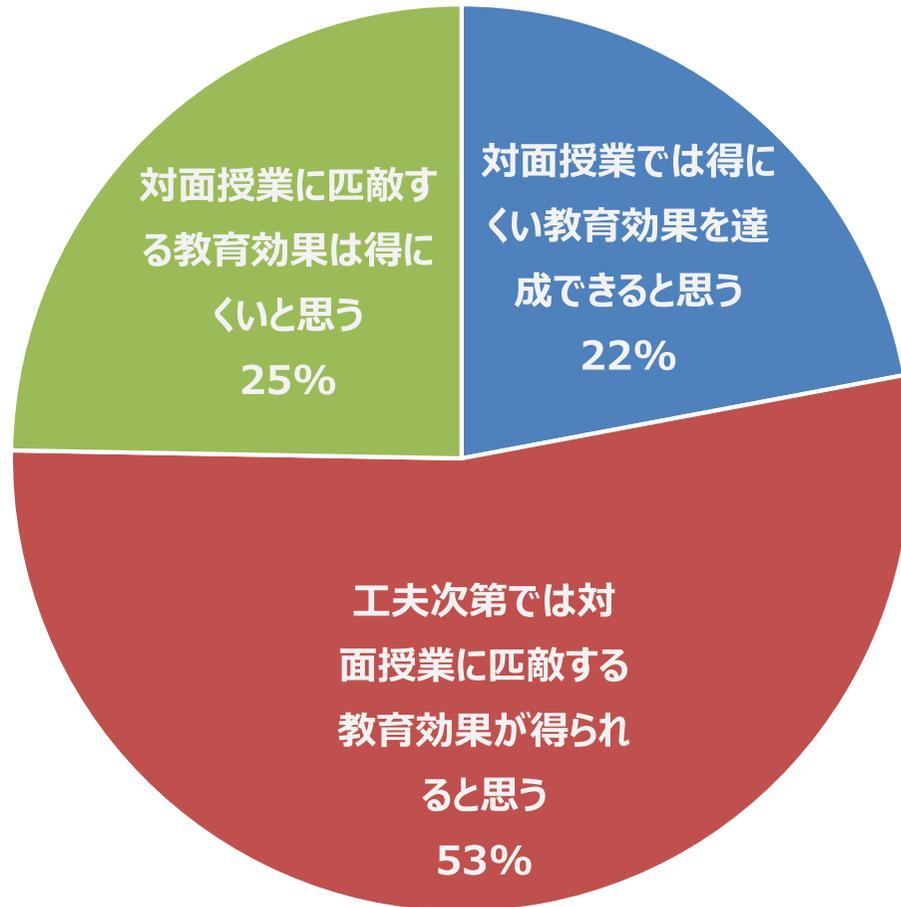


- 教育の質を確保する工夫について、「いいえ」が目立ったのは「学生同士がディスカッションをする機会を多く設定している」「こまめにレスポンスシートを提出してもらい、学生の理解度を確認するようにしている」の2項目
- その他の項目については半数以上で「はい」となり、教員一人一人の工夫がみられる。

(注) 項目番号が9から始まっているのは、前項の質問と連番になっているためです。

VII オンライン授業による教育効果について

26. オンライン授業による教育効果について、現時点での感触をお聞かせください。



- 「対面授業では得にくい教育効果を達成できると思う」「工夫次第では対面授業に匹敵する教育効果が得られると思う」の、オンライン授業の教育効果に肯定的な回答が75%となった。

埼玉大学における新型コロナウイルス感染症対策に伴う
令和3年度入学者選抜実施の対応について

令和2年 7月31日
埼 玉 大 学

令和3年度埼玉大学入学者選抜については、令和2年7月31日に「令和3年度入学者選抜に関する要項」を公表し、大学入学共通テスト及び個別学力検査等の出題教科・科目、配点等をお知らせしています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により試験実施上の配慮が必要なことから、文部科学省「令和3年度大学入学者選抜実施要項」により検討を行い、埼玉大学の対応を以下のとおりとします。

○ 一般選抜

【出題範囲等】

- ① 大学入学共通テストの指定科目については、特段の配慮は実施しません。
「令和3年度大学入学者選抜に関する要項」を参照してください。
- ② 個別学力検査の出題範囲については、教科書において「発展的な学習内容」として記載されている内容からは原則として出題しません。
出題する場合においても、設問中に補足事項等を記載するなどの対応を行います。

【出願期間】

- ① 出願期間は、令和3年1月25日（月）から2月5日（金）までとします。
- ② 大学入学共通テストの特例追試験受験者に配慮した出願期間を令和3年2月15日（月）から2月18日（木）まで別途設けます。

【試験期日等（追試験）】

新型コロナウイルス感染症に罹患した受験者等を対象とする追試験を、令和3年3月22日（月）に前期日程、後期日程併せて実施します。

○ 特別選抜（総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試）

「令和3年度入学者選抜に関する要項」に変更はありません。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、試験日程や入学者選抜方法に変更が生じた場合には、埼玉大学ホームページ（<http://www.saitama-u.ac.jp>）にてお知らせします。

【本件リリース先】
埼玉県県政記者クラブ



資料 4
埼玉大学記者会見
令和2年9月23日

e-mail:koho@gr.saitama-u.ac.jp

PRESS RELEASE

イベント開催告知

令和2年9月23日

2020年度 埼玉大学ウェブセミナー

「新しい生活様式への挑戦 ～感染症と共存する社会とは～」

概要

埼玉大学では、教育・研究の成果を広く発信し社会貢献を果たすため、地域や一般の方々が自由に参加できる公開講座、イベントを開催しております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、ウェブセミナー「新しい生活様式への挑戦 ～感染症と共存する社会とは～」を開催します。本学の教員が3回にわたり、with コロナ・after コロナの生活について講演します。

本セミナーはZoomを利用したオンラインセミナーとなり、パソコンやスマートフォンで視聴いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時： 第1回 令和2年10月31日(土)14:00～15:00
第2回 令和2年11月28日(土)14:00～15:00
第3回 令和2年12月19日(土)14:00～15:00

会場： Zoomによるオンライン開催

内容／プログラム： 第1回 感染る(うつる)ということ
第2回 そのとき、子どもたち・教職員は
～附属学校園における新型コロナウイルスへの対応の現状と課題～
第3回 もうひとつの企業変革
～慢性疾患の状況をどう変え続けるか～

対象： どなたでも受講できます

定員： 各回先着 500名まで

参加費： 無料

参加申し込み： 要（要の場合、申込み方法を記載してください）
本学 Web サイトから参加登録フォームに必要事項を記載の上、お申し込みください。

主催： 埼玉大学

※ポスター： 有

—取材申込み・問い合わせ先—
埼玉大学広報渉外室
担当 工藤、田沼

TEL 048-829-7672 / FAX 048-858-9057
e-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp

セミナー形式

講義 45分 +
質疑応答 15分



2020 年度

埼玉大学

ウェブセミナー

パソコンや
スマートフォンで
視聴可能です。



新しい生活様式への挑戦 ～感染症と共存する社会とは～

開催日時

第1回

10月31日(土) **LIVE 配信**
▶ 14:00～15:00

感染る(うつる)ということ

講師 大学院理工学研究科 准教授 **はたけやま しん 普**



参加登録フォーム
(第1回)

流行性のかげやある種の病気は人から人うつること、それには目には見えない病気のもととなるもの(ウイルス、病原菌)が関わることを我々は知っており、現在、それを常に意識しなければならない生活を強いられています。

ウイルス、感染、感染症、免疫反応、ワクチンなどの用語について解説しつつ、感染ることについて整理します。

第2回

11月28日(土) **LIVE 配信**
▶ 14:00～15:00

そのとき、子どもたち・教職員は

～附属学校園における新型コロナウイルスへの対応の現状と課題～

講師 教育学部 教授 **おくら やし 小倉 康** (附属幼稚園) 教授 **ほしかわ えりこ 細川 江利子** (附属小学校長)
教授 **あんどう としひこ 安藤 聡彦** (附属中学校長) 教授 **よしかわ な 吉川 はる奈** (附属特別支援学校長)



参加登録フォーム
(第2回)

本学附属学校園における新型コロナウイルスへの対応の現状と課題について附属学校園長4名からお話いたします。

第3回

12月19日(土) **LIVE 配信**
▶ 14:00～15:00

もうひとつの企業変革

～慢性疾患的狀況をどう変え続けるか～

講師 大学院人文社会科学研究所 准教授 **うたがわ もとかず 宇田川 元一**



参加登録フォーム
(第3回)

新型コロナウイルスの問題のひとつは、日本の企業社会が慢性的に抱えていた課題が浮き彫りになったということではないでしょうか。それは、組織内のコミュニケーション不全であったり、イノベーションの不在であったり、様々な形で表面化してきています。

この講演では、上記のような慢性疾患的に徐々に組織を蝕んでいく状況をどう変革していくかについてお話します。

事前登録制

先着 **500** 枠まで
枠が埋まり次第終了

参加登録フォーム

上記 QR コードを読み取り、必要事項を
記載の上、お申込みください。

受付期間

第1回:令和2年9月14日(月)～10月23日(金)まで
第2回:令和2年9月14日(月)～11月20日(金)まで
第3回:令和2年9月14日(月)～12月11日(金)まで

お問い合わせ先

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 埼玉大学広報渉外室(公開講座担当)
電話:048-829-7672 Eメール:koho@gr.saitama-u.ac.jp

多数のご参加
お待ちしております



埼玉大学マスコットキャラクター
メリンちゃん

PRESS RELEASE

令和2年9月23日

埼玉ならではの大学院教育学研究科へ －教職大学院の拡充－

1. 背景

教員養成の分野について、子どもたちの学ぶ意欲の低下や社会意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校などの深刻な状況など学校教育の抱える課題の複雑・多様化する中で、こうした変化や諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められています。

2. 概要

教育学研究科は、「修士課程」と「専門職学位課程(教職大学院の課程)」の2つの課程からなっていますが、令和3年度より「専門職学位課程」1つに統合します。「専門職学位課程」は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力を持った教員を育成することを目的とします。そして、令和3年度よりは、養護教諭・幼稚園教諭・教科教育に関わる分野を新たに加え、すべての領域をカバーするものに拡充します。

【令和2年度まで】
修士課程

専攻名	入学定員
学校教育専攻	15
教科教育専攻	27

専門職学位課程(教職大学院の課程)

専攻名	入学定員	コース
教職実践専攻	20	教育実践力高度化コース 発達障害支援高度化コース

【令和3年度より】(設置予定)

専門職学位課程(教職大学院の課程)

専攻名	入学定員	プログラム	サブプログラム
教職実践専攻	52	総合教育高度化プログラム	学校構想サブプログラム 特別支援教育サブプログラム 学校保健サブプログラム 子ども共育サブプログラム
		教科教育高度化プログラム	言語文化系教育サブプログラム 社会系教育サブプログラム 自然科学系教育サブプログラム 芸術系教育サブプログラム 身体文化系教育サブプログラム 生活創造系教育サブプログラム

※記載内容は予定であり、変更する場合があります。

3. カリキュラムなどの特徴

- (1) 高度な専門性に裏打ちされた理論と実践の融合型カリキュラム、研究者教員と実務家教員がタイアップした指導体制と授業、教育現場で行う学校実習(実地研究)を整備します。
- (2) 学校実習は、これまでは、小・中・特別支援学校が対象でしたが、新たに高等学校と幼稚園も加え、院生の研究対象を拡充します。
- (3) 将来的に博士課程へ進学することを希望するものに対する、特別プログラムを用意します。
- (4) 教育現場での相応の経験を積んだ教員を対象に、1年で修了できるカリキュラムを新設します。

4. 学生募集

- (1) 第1期 出願期間 9月28日(月)～10月2日(金)、試験日 10月31日(土)
第2期 出願期間 12月7日(月)～12月11日(金)、試験日 1月23日(土)
- (2) 出願選抜区分の特徴の一つとして、埼玉大学教育学部からの指定を受けている大学からの推薦者を対象とする「指定校推薦特別選抜」を実施します。教育学部からの指定は、令和3年度は、埼玉県と東京都の私立大学5大学です。

5. 今後の展開

埼玉県に関わりの深いスタッフを揃え、埼玉県内からの現職教員の院生も多く受け入れます。教職大学院で行う学校実習も埼玉県内の教育現場を対象とし、埼玉という地域の教育課題を共同で探究する「現代的・地域的教育課題の共同探求」を開講するなど、埼玉県ならではの教職大学院として再出発します。

6. 問い合わせ先

埼玉大学教育学部支援室教育学部係
TEL 048-858-3144 / FAX 048-858-3690
e-mail ikugakumu@mail.saitama-u.ac.jp